

次期Earth戦略における 先端技術の視点

〈視点〉 先端技術による地域課題の解決

九州・山口地域には、自動車や半導体、精密機械などの基幹的な産業が集積し、ものづくりの伝統がある中で、先端技術を活用し地域課題の解決に挑戦する取組が各地で始まっている

【地域課題の解決】

- ・ 買い物弱者や不便な地域交通など全国各地に地域課題が存在。
- ・ 防災・減災への対応など、地域に限らず全国的な社会課題も存在。

⇒ 先端技術で地域課題の解決に貢献。地域コミュニティの維持・発展を図る。

【企業の生産性向上】

- ・ 人手不足。労働投入量増加による成長が難しい人口減少社会。
- ・ 限られた労働力で、付加価値の高い製品・サービスを生み出す必要あり。

⇒ 先端技術の投入で生産性の向上を図る。

先端技術の活用事例①

クリーン Energy & Environment

コミュニティビークルでのEV市場への挑戦 【沖縄県】

- 地域で創り、地域で活用する“カスタマイズEV”、いわゆる「コミュニティビークル」を開発
- 沖縄県内では、大規模リゾート施設などで約2,000台のカー트가活用されている。

⇒現在は主に大手メーカーのカー트가使われているが、サイズ、専用デザイン、多人数対応などオリジナルカータに対する潜在的ニーズは大きい。

⇒今後は、県内企業と連携して、観光分野（観光施設内、ゴルフ場、ホテルなど）及び福祉分野（高齢者の移動手段など）での県産コミュニティビークルの事業化を推進する。



1人乗り試作車両



県内観光地で活用されている車両の例

農林水産業・食品 Agriculture

医療・ヘルスケア ・コスメ Health

ナノバイオテクノロジーによる検査 【鹿児島県】

- ウイルスと結合する性質を持つ糖鎖を用いた、ナノバイオテクノロジーによるウイルス検査技術及び検査装置の開発

⇒畜産現場では、家畜ウイルスの早期発見、迅速な防疫対応が可能となり、畜産県である本県において大きな需要が見込まれる。

⇒医療現場では、短時間（20分弱）かつ発症前でもインフルエンザウイルスを判定できるため、大きな需要が見込まれる。（県内医療機関導入実績あり）
開発：株式会社スティックスバイオテック（鹿児島市）



先端技術の活用事例②

観光 Tourism

遠隔操作ロボット「アバター」 【大分県】

○ANAやJAXAとともに、ロボティクス、センサー、力触覚、高速通信などの技術が融合した遠隔操作ロボット「アバター」の早期実用化を目指すプロジェクトを推進

⇒学校教室と見学対象をつないだ遠隔授業や、県内観光地を疑似体験させる観光PRなどの実証事業を実施

⇒ANA、JAXA、大分県が中心となり、アバターの宇宙関連事業の検討を開始（H30.10に32の企業・団体が参加するコンソーシアムを組成）



横断的取組 （第4次産業革命）

AIを活用した運転技能の評価システム 【宮崎県】

○近年、高齢者が運転する自動車の交通事故の増加が社会問題化一方で、地方においては、自動車が日常生活の移動手段として不可欠

○運転を止めることは脳の機能低下である認知症につながるとの研究結果もある

⇒AIを活用した運転技能の評価システムを産学官連携により構築

⇒高齢者ドライバーの加齢と共に衰える身体機能を個人毎に判定する新たなサービスを展開

⇒システム構築：株式会社オフサポート（宮崎市）

